参加者感想

藍住中学校３年　ab

私は今回のような中学生交流集会に参加したりしたことがなく，ほぼ何の知識もない状態で参加しました。いろいろな学校の中学生や高校生もいて，とても緊張していました。けれど，私と歳が少ししか変わらないのにいきいきとしゃべったり，発表，意見を言う姿にとても心が動かされました。私もこんな風になりたい！とあこがれました。みんながプレゼンをしたり，作文を読んだりする姿を見て，大人になってもこのような力は役に立つから，私も身につけたいなと思いました。私も１度だけ発表できたけれど,かみかみでうまくしゃべれなかったです。みんなに見られながらではやっぱり緊張するので，ふだんから発表するくせをつけようと思いました。この会が最後なのが悲しいですが，とても勉強になりました。ありがとうございました。

藍住中学校３年　aa

私はこの“たくさんの個性で彩られた世界！
私の色もずっと輝き続ける”をテーマにした，「人権を語り合う中学生交流集会＋'25」に参加して，さまざまな考えができました。一番すてきに思ったのは，みんなが言いたいことが言える場の雰囲気で，正直に話し合っているところが素敵だと思いました。参加した人みんなで人権意識を深められてうれしかったです。

板野中学校３年　ad

今日の「人権を語り合う中学生交流集会」で学んだことがあります。１つ目は，誰かを助けるためには，１人でも多くの人が小さなことから積み重ねて行動することが大切ということです。私がこのように考えたきっかけの発表は,bzさんの献血についての発表で，以前までは「献血」という言葉を見たり聞いたりしても，「自分には関係ないこと」と思っていましたが，たった１回の献血でも誰かの命を助けられると知ったので，献血できる年になったら行ってみたいと思いました。

２つ目は，歴史は繰り返されてしまうということです。このように考えたきっかけの発表は，bw さんの発表です。昔にハンセン病が流行していたときに，徹底的に隔離をしていたり，周囲の人たちから冷たい態度をとられて苦しんでいた時代があったのに，コロナが流行したときも同じようなことが起こっていると思いました。今日の意見で出てきたものは，一人一人が意識して生活していくことで，いつかは改善していくものではないかと思いました。

板野中学校３年　af

中学生交流集会に参加して，私は今回が初参加だったのですが，まさか最初で最後の大会で作文の発表をさせてもらえるなんて思ってもいませんでした。発表した際に，全く緊張しなかったのですが，それはきっと集会に来ていた皆さんがとても優しく温かい方々だったからだと気付きました。しかし，誰に対してもみなさんが優しく接しているのは，これまで生きてきた中で，どこかで傷付いたり，苦しい思いをしたり，立ち直れないくらいの辛い挫折を経験してきたからだということを，交流会を通して知りました。

また，この集会で印象に残っているのは，bsさんの「見えない個性を大切にする」と「自分の全てを愛する」という言葉です。私の性の多様性の作文の中にも“個性”という言葉は出てきているのですが，私の場合見えている外面的なものが作文の軸となっていたので見えている内面的なものを自分で愛するということは考えもしませんでした。それはとても難しいことで，乗り越えなければならないことはたくさんあるけれど，その先には自分を愛することができた自分が家族や友人，他人に寄り添えることのできる人間になることができるのだろうなと思いました。

私がこの集会で学べたことは，他人行儀な人間にならないことです。社会にはまだまだたく

さんの人権問題があるけれど，それらに真摯に向き合い，周りの人々に寄り添うことが必要だと思いました。

松茂中学校３年　al

私は今回の集会で２回目となる参加でしたが，昨年とは違うことを得られたと思います。特に印象に残っているのは。bw 先輩のヤングケアラーについての作文です。私はヤングケアラーについて，聞いたことはあるけれど，内容は詳しくは知りませんでした。だから，クラスに１～２人いてもおかしくないという言葉に衝撃的でした。こんなにも身近で起こっている人権問題なのに，内容を詳しく知らなくて反省すると同時に，もっと人権問題について学習していこうと思いました。bz 先輩の「無知なことが恥なのではなく，無知なことを知ろうとしないのが恥だ」という言葉には，まさにその通りだなと感じました。私はまだまだ人権問題について知らないこともたくさんあるので，もっと学習していこうと思います。

また，私は今回人権作文を読みました。正直，不安でいっぱいな気持ちだったけれど，本番では堂々と読むことができたと思います。これは自分の意見を言うことや人前に出ることが苦手な私にとって，“挑戦”することができたので，この人権交流集会を通して少しは成長できたと感じています。

私は，この集会から自分の意見を持って話すことの大切さ，語り合うことで人とつながれることを学びました。学んだことを生かして，他の人にも伝えていきたいです。今回で最後の中学生交流集会となってしまうのが，とても残念な気持ちでいっぱいです。しかし最後のこの集会で，司会を２度務めたり，作文を読んだりすることができ，うれしく思います。これは私の成長にもつながることができたと感じています。またこのような場があれば，参加してみたいと思います。とても有意義な時間になりました。本当にありがとございました！

松茂中学校２年　ap

私は人権交流集会を通して思ったことは，一人一人の意見や考え方が違うということです。例えば私が意見に賛成だけど，他人は反対の場合があるということです。みんな違ってみんないい。今年で最後なのは心苦しいですが，今年まで教えてもらったことを胸に，前へ一歩一歩進んでいこうと思います。今年までお疲れさまでした。

松茂中学校１年　aq

私は人権交流集会で，いろいろな差別やいじめ,病気に困っている人がいると分かりました。見てるだけではなく，そのいじめや差別されてる人の役に立つように頑張ろうと思いました。私は１年しかたってないけど，人権交流集会はとても大切なことだと思いました。

松茂中学校１年　ar

私は人権を語り合う中学生交流集会を通して，「本音で語り合う」ことが大切だと思いました。自分の思いを表現することは，簡単に伝えられる人もいれば，なかなか表現ができない人もいると思います。どうすればみんなが本音で語り合えるのか，交流集会中にとても考えていました。結果，私の中でたどり着いた答えは，周りの大人たちが本音で話すことが一番みんなが本音を語り合うことにつながるのではないのかなと思いました。そして「本音で語り合う」には，一人一人が人権について「考える」ことが大切だと思います。考えることは，何をするにしても大切なことで，「本音で語り合う」には，自分で考えたことを語り合うことが大事かなと思いました。

人権を語り合う中学生交流集会＋25は，今回で終わりだけど，今回の本大会で話し合ったこと，みんな一人一人の思いを忘れることなく，今後生活していけたらいいなと思っています。とても有意義な時間で楽しかったです。

詫間中学校教員　dk

今回で最後となる中学生交流集会，本当に寂しい思いです。この交流集会や全体学習のおかげで私の人権学習は変わりました。語り合う人権学習を実践することで生徒の表情は変わりました。そしてポツリポツリと語り始める心の声こそが，お互いの考えや思いを変えてくれることを実感しました。「きっとこの自分の思いを分かってくれる人はいる」という思いで自分を語ることで，語った人もそれを聞いた人の心も救われていく，そして互いに幸せに近づいていきました。そんなことを教えてくれた中学生交流集会にこころから感謝しています。交流集会は終わっても,人権学習への思いのある先生方,そして生徒の皆さんの活動は，きっと別の形で実現していくと思います。今日，徳島に来て，みなさんの言葉を聞いて，心が温まりました。本当にありがとうございました。

小豆島中学校３年　bh

石川さんの動画を見て，もし自分が石川さんだったら石川さんみたいに無罪を主張し続けてはなく，たぶん諦めて死ぬのを待ってると思うので，石川さんの行動はすごく勇気がいることなのですごいと思いました。全体会の話を聞いて思ったことは，自分から進んで正しい知識を知り，それを周りに伝えていくことが大切だと思いました。そして一人一人の意識が変わることで，少しずつ世の中が変わっていくと思います。一人一人の意識が変わるために自分は正しい知識を知って，それを父や母，祖父母，周りの人たちに知ってもらい，覚えてもらうことかなと自分は考えます。知ってもらう，覚えてもらうだけではなく，ちゃんとしっかり理解してもらうということも大切だと思います。

午後の部Ⅱでは，人権学習とは何かと考えさせられる話だったことで，自分も家で家族と人権学習とは何か考えてみたいです。一人一人が理解することで，世界がもっと優しくなるのではないか，そうすることで苦しんでいる人が少しでも減るかなと感じました。

小豆島中学校３年　bf

警察の間違った考え方によって，石川さんの一生が奪われてしまい，とても悲しい事件だと思いました。相手の感情や考えをしっかり聞き，正しい行動をしていきたいと再び思いました。

献血とは採った血をそのまま輸血すると思っていましたが，採った血に薬などを入れ，輸血をすることを知りました。このように間違った考え方によって悲しい思いをする人が出てくると思います。なのでこれからは，正しい知識をつけ，これから生活していきたいと思います。

人権集会の問題にあった「命を救うため」にはどうすればいいか考えてみました。私は物理的に人の命を助けたいと思いました。私は救助隊員になり，消防人生が終わるまでに1,000人の命を救いたいと思います。

小豆島中学校３年　bi

初めに石川一雄さんの追悼動画を見て思ったのは，まず一番に「なんで本当は罪を犯してない無罪の人が何十年間も訴え続けないといけないのか」と思いました。生まれた地やハンセン病などで差別“ブラック差別”など決めつけで無罪なのに死刑になったりするのは，とても違和感でしかなかったです。

その後パネリストの中の一人のお話を聞いていて，“川崎病”という名前を聞いていて，“人権”と“献血”がとても深いことを知り，自分が少し意識を変えるだけで，世界中の一人が助けられると知りました。今回のテーマにある“個性”については，(例)犯罪者が侵した犯罪は“個性”なのかという疑問で，犯罪を犯した後，反省をするという肯定が“個性”として認めることが大切なんじゃないかなというのはとても心に残りました。まず人は今生きているだけでも素晴らしいことだと聞いて，“人生”そのものが“個性”なんだなと深く思いました。自分がどんな人格だろうが，自分は１番の味方だと思うので，自分で自分を否定することがないように，まずは自分自身を大切にすることが大切だと，すべての課題に共通するのかなと思いま

した。なので今後，自分がどんな自分だろうが，他人に何と言われようが，自分自身が一番の味方でいたいと思いました。

小豆島中学校３年　bd

献血で採った血液はそのまま使わないことが分かりました。小さなことでも命を救うことになるのが分かりました。見えない個性も大切にできるようにしたいと思いました。しっかり物事などを知って，誤りをなくせるようにしたいです。「無関心」をなくして「関心」にしたいと思います。知識をつけるだけでなく，行動に移せるようにしたいと思いました。習っていたこととかも全然伝えられていなかったので，伝えられるようにしたいと思いました。ヤングケアラーとかあまり知らないことも知れました。もっと知りたいとも思いました。カミングアウトなど，自分の気持ちを言うことは良いことだと思いました。命を救うために，いじめをしない，やらさせない。献血をやる。知識を共有していく。

小豆島中学校３年　bm

今日の人権を語り合う中学生交流集会＋'25に参加して，とても良い思い出になりました。献血をあまり知らなかったけど，自分も献血ができる年になったら誰かを助けてあげたいし，自分が思った以上に献血で助かって今の自分がいるっていう人が結構いてびっくりしました。特に印象に残っているのが，マッチ売りの少女は考え方によって色々と違う考え方があるんだなと思いました。bt さんが，みんなの前で堂々と思い切って話していておもしろかったし，すごいと思いました。僕も２回みんなの前で話せて楽しかったです。最後の会に行くことができ良かったです。夏休みの最高の思い出になりました。

小豆島中学校３年　be

命を救うためには，献血をしに行くことがいいと思いました。献血をすることでたくさんの命を救うことができると分かりました。16才から献血できると分かったので，16才になったら献血に行ってみたいと思いました。

石川さんの動画を見て，布川事件での罪を自分が無罪だと言い続けて無罪判決を下されたことは，とてもすごいことだなと思いました。

LGBT の話を聞いて，「女の子だから」「男の女だから」と言われてしまったけど，その言葉が差別だと言うと，それから一回も言わなくなったので，一回の一言の言葉で差別がなくなることにびっくりしました。差別はあらためて絶対にしてはいけないと学べることができました。

初めて人権集会に行って，初めて知ったことや聞いたことがあることを聞けて，良い経験になったと思いました。学んだことをまずは身近な人に伝えて，みんなに広めていきたいと思います。性の種類は４つあって，それぞれ良いことだと知れました。たくさんの個性を認めていきたいです。

小豆島中学校３年　bk

石川さんの「見えない手錠を外すまで」を見て，布川事件での罪を無理やり自分がしたと言わされて牢屋に入れられたけど，釈放された後も自分が無罪だと根気強く証明して無罪判決を下されたことに，石川さんのすごい今までの努力が報われたと感じました。諦めずに最後まで戦った石川さんを見て，人生を大切にしようと思いました。

献血と人権学習は深くかかわっていることが分かりました。献血をすることで一人でも命を救うことができ，私が16歳になった時にしてみようと思いました。川崎病はうつる病気ではないという正しい情報を理解し受け入れることが大切だと思いました。

自分らしく生きるためには，自分の意見と相手の意見を尊重し伝えることが大切で，一人一人の個性を受け入れて認め合うことが大切だと思いました。誤った知識から差別が始まってしまったことから，病気などの理解を深めていく

ことが，今自分が身近にできることだと思いました。何事も自分事として考え，問題を解決していこうとする考え方が大切だと思いました。「頑張るって怖い」という言葉に共感して，まずは「しゃべる」ことが大切だと分かりました。

小豆島中学校３年　bg

この人権交流会で，一番印象に残ったのは無罪の罪でつかまり死刑判決，無期懲役を受けたということです。つかまった石川一雄さんは女子高生が殺された日，ただアリバイがないというだけで疑われ，無理やり「私がやりました」と言わされたというのに，とてもつらいだろうなと思いました。私はこのことから，罪のない人に罪を押しつけることをしないようにしようと思いました。

bz さんの献血の話を聞いて，献血はそのまま患者へ輸血されるのではなく，一度その血が加工されて届けられると聞いて，私の知識は違っていたと分かりました。自分の血を採るのは怖いですが，一度してみようと思いました。

bs さんの話で，犯罪者の犯罪も個性と聞いて，そういう捉え方があるんだと，面白いなと思いました。日本には死刑執行があるが，人が人を殺すと殺人になるのに，国が死刑執行で人を殺すことは罪にならないのか？という疑問に，とても深く考えさせられました。私は今でも人を殺したから死刑は当然，罪を犯したのなら罪を償うのが当然だと考えているので，このことでいろんな人の意見を聞きたいと思いました。

小豆島中学校３年　bl

私が一番印象の残っていることは，死刑執行があった方がいいか，無い方がいいかという議論だ。２人の高校生が話をしていた。一人目の方は,死刑執行があった方がいいという意見で,「被害者の家族の方が少しでも心が軽くなってほしい。加害者の方には死んで罪を償ってほしい」という理由だ。もう一人の方は反対に，死刑執行はない方がいいという意見だ。「たとえどんなに悪い人でも，一人の人だから人権がある。その人には生きて罪を償ってほしい」という理由だ。この２人の意見を聞いて考えたことは,１つの議論でも意見が分かれていることだ。死刑執行について話をしていたのはこの２人だけだが，この２人でも意見が真反対に分かれていた。けど自分の意見をはっきりもち，相手の意見を批判せず，肯定しながら意見交流をしていてすごいと思った。私は死刑執行についてはあっても無くてもいいと思う。私がもともと優柔不断というのもあるが,２人の意見を聞いて,どちらの考えも納得がいく発表だったので，私はどちらでもいいと思いました。

午前の部であった bz さんの「命を守るためにはどうすればいいか」という問いで私が考えたことは，いじめをしている人，差別用語を使っている人に対して，今日学んだことを相手にしっかし伝えたいと思います。bt さんが言っていた「しゃべることが大事」ということで，人としゃべると人脈が広がるし，自分がしゃべったことについて振り返り，次の時に改善できることが分かった。私自身は人と会話をすることがとても苦手だ。「自分の頭で考えていることを上手く言葉に表せない」と言うと，よく言われるのが「上手じゃなくていいから自分の言葉でゆっくり話してくれたら言いよ」という言葉だ。この言葉を言われても,自分の中では「上手に言わなくちゃ」とか,「言葉をまとめて言わないと相手に伝わらない」とか考えるけど,これからは自分の言葉で家族に，友達に，いじめをしている人，差別用語を使っている人に,今日知ったこと，その前に学んだことを伝えられるようにしたい。

小豆島中学校３年　bj

勝手な決めつけや偏見で人の人生を奪ってはいけないと思った。石川さんは警察に人生を50年以上も奪われたけど，その中でもあきらめずにたたかうという気持ちやメンタルがすごいなと思った。だから自分は，偏見はしてしまうかもしれないけど，それを口に出さず，心でそっ

としまい，差別されている側の人を味方し，いろいろな人に広めていきたい。同じように，人を助けるという面で，献血など小さなことでも多くの人を助けることができ，だんだんやっているうちにいずれ世界を変えることができるかもと思い，献血などささいなことでも参加していきたい。他にも人権問題や個性のことについてもしっかり学び，その学んだことを生かしていきたい。命を救うために，自分は差別をなくしていく。そのためにまず身の周りから残酷さを広めていきたい。

小豆島中学校２年　bq

今日の人権を語り合う中学生交流集会に参加して，献血や狭山事件の石川一雄さん，６人の方々の意見発表などで，人権について考えられました。献血についての話では，献血の詳細や川崎病についてなどが分かりました。献血については全然知らなかったけど，この話を聞いて僕も献血をして，人の役に立ちたいと思いました。狭山事件についての話では，62年間無罪を主張して，人生の大半を奪われてしまうのはとても可哀そうだと思いました。意見発表では，みんな自分の考えをちゃんと言っていて，すごいなと思いました。今回は言えなかったので，２学期の人権集会ではちゃんと意見を発表したいです。

小豆島中学校２年　bq

献血の話を聞いて，世の中には輸血を必要とする方が多くいることが知れました。川崎病で悩んでいる子どもたちがいることを知って，私も献血ができたらいいなと思いました。

個性の話は，「自分よりも上の人がいて悔しい気になった」という言葉を聞いて，私はサッカーでそのことを感じていて，とても共感できましたが，それも個性ということを知れて自信がつきました。

両親が難病を患っている方の話では，周りの人には難病などを患っている方はいませんが，困っている人がいたらすぐ助けるという考えを持ちたいと思いました。ヤングケアラーの話では，高校では24人に１人いることが分かって，周りの人にそのような人がいたら相談に乗ったりするなどの手助けになるようなことをしていきたいと思います。

bz さんが話していた「感謝」を忘れないようにしたいです。これからは，自分のことも相手のことも考えて，行動に移せるようにしたいです。

小豆島中学校２年　bo

今回が初めて参加した人権についてのイベントだったけど，本当にずっと楽しみながら参加できました。特に bt さんの話や死刑についての討議がすごくおもしろかったです。みんな自分の体験や経験をもとに話していて，説得力がすごかったです。bz さんの話の中で，「１日ってみんな平等に来るからさ，もうすぐ死んじゃうからとかじゃなくて，毎朝ありがとうって言おう」っていうのがすごく響きました。次もどうせあるんだからって思わずに，毎回最後かもしれないって，ちょっとだけでも危機感を持ちながら過ごしていきたいと思いました。

またハンセン病の歴史についても，コロナとハンセン病で，無知で間違った知識が広まったことのせいで，感染者の差別につながってしまったことが分かりました。無知だったならそれを認めて，知ろうとすることが大切だと思いました。「無関心」についてもまた，知るすべはあるはずなのに，それに興味をもつことさえしないのが一番怖いところだと思いました。

小豆島中学校２年　bn

今回の集会を通じて特に印象に残っているのはハンセン病についてです，１度学校でも学習していたこともあったからです。誤った情報をうのみにするのではなく，正しい情報を見分けることが大事だと分かりました。しかしコロナ時に繰り返されたことを思い出しました。また，このような人権問題に無関心で知ろうとしないのは恥という言葉に共感しました。だから積極

的に知って，考えて，時には経験して語り継いでいきたいです。ヤングケアラーという言葉はあまり聞いたことがありませんでした。この世にはこのような人がいっぱいいると分かったので，困りごとを打ち明けやすい環境づくりが必要だと考えました。父はよく献血に行っていたが，あまり深く知ろうとしていなかった自分が恥ずかしいと思いました。誰かの命を救うためにも,将来必ず父と献血に行こうと決めました。bt さんの話を聞いて変わるためにはやらなければいけない。しかし，それで頑張りすぎると壊れてしまうから，余裕とのバランス調整がいると分かったので，余裕が作れるぐらいの生活がしたいと考えました。今日をふりかえって，もっと人権について考え，理解を深めていきます。

小豆島中学校教員　cv

「狭山事件」について本校では学習しておらず，初めて知った生徒が多かったと思うが，分かりやすく説明してくださり，また動画を観ることで心が動いた生徒もたくさんいたと思う。人が人を裁く時，そこに差別や偏見が無意識のうちに介入してしまう。あってはならないことだが，だからこそ「人が」裁くのではなく，「法が」裁かねばならない。そのことも含めもう一度「死刑」について子供たちに考えてもらいたかった。正義を盾にした時，人間は平気で人を殺してしまう。しかしそこには，「死刑制度」に当たる人，家族がいるということ。そしてそれらの職に就いていた人々が長らく差別を受けてきたことにも想いを馳せてほしいと感じた。

今年で最後となってしまうこの会に，生徒と共に参加できてよかった。校内ではなかなか打ち明けることができない思いを表出できた生徒もいた。この会の力だと今年も思うことができた。今まで運営に携わってくださった先生方，本当にありがとうございました。この想いを小豆島でも引き継いでいきます。

小豆島中学校教員　cy

石川さんの話など知らないことがまだまだあるなと実感しました。本校では学習していないこともあったので，生徒たちもしっかり聞いて考えを深めていたと思います。人権の会に参加すると自分もバージョンアップできるので，いつも楽しく参加させてもらっています。

川崎病についての語りが終わったときに衝撃を受けました。自分の勉強不足なところに反省するとともに，輸血に色々な使い方があることを知れ，私にもできることがたくさんあると考えさせられました。

今回の語り合いの中で，「実は私も…」というように語れている中学生いて感動しました。自分のことを語ることで自信につながり，また周りのことにも気配りできるようになっている生徒たちを見ていると，すごいなと感心させられっぱなしでした。自分のことを語ることが好きな子たちがたくさんいて，目をキラキラ輝かせながら堂々と語る姿を見ていたら，すごく元気になりました。もちろんつらい経験をしてきたこともあるでしょうが，それも自分の糧として，前向きに進んでいる姿にも感動しました。語り合い学習の良さを再確認することができました。この語り合いを本校でもできるように頑張っていきます。

小豆島中学校教員　cw

初めて人権の交流会に参加しました。まず感じたことは，場があれば中学生でもこんなに自分のことを語れるのだということでした。そして一人一人が刺激を受けて色々なテーマについて語ったからこそ，改めて人それぞれに自分が経験したことのないようなバックグラウンドや人生があることが分かりました。私は LGBTQ+ に特に関心をもっています。自分の嗜好が分かっているというのは，自分を受け入れているということだし,自分らしさでもあると思います。だからすごく素敵なことだと思うけど，それが人権の話題になるということは，差別にあったり辛い思いをしている人がいるということなの

で，私は本当に信頼している人にしか話しません。まずは自分の身を守って，自分を大切にするところから始めたいです。そして，余裕をもって人に関わるようにしたいです。そのためにも，もっと知識をつけることや，自分の意志で人権の会などによって，命を救うことにつながるのではないかと思います。

小豆島町職員　cz

この交流集会に今年も参加させていただいて感じたことであるが，参加者みんなの人権意識が高く，意欲的であり，またどんなことを発言しても許してくれるという「場」や「雰囲気づくり」が自然にできているという非常に居心地の良い空間でした。堂々として素晴らしい背中を見せる頼もしい高校生たちを見て，それに続く中学生たちを見ることができました。

当初，中学生交流集会ということで発言を控えようと考えておりましたが，bz さんをはじめとするパネリストの方たちの熱い思いを受けて,気がついたら思わず手を挙げておりました。献血の必要性，どんなに大事で大切なことをしているのか。殺人を犯したものを死刑にすべきか否か？被害者やその親族からしたら死刑を望む気持ちはわかるし，再犯の防止にもなる。「大切な命」なのだから更正の機会を与えるということで，高校生同士で討論されていましたが，「死刑」あるいは「更正」の正解がどちらなのかが本当に難しいと思いました。報道にもある冤罪事件もありますので。

他には，いじめられていた子の家を「突ったら」その子は亡くなっていたという発言を聞いて衝撃を受けました。子どもを持つ身としては，その亡くなられた子の親や本人の気持ちを思うと悲しすぎる結末です。

話は変わりますが，帰りのバスでバスの後ろ側から順番にこの交流集会に参加した感想や意見を述べてみんなで共有しました。私は，他人と自分を比較するのではなく，昨日の自分より0.1ミリでも良いから成長する・変化する・進化することが大事だと思っていることを伝えました。この交流集会において思い切って発言された生徒さんたちは昨日の自分より数センチ成長・進化したと思います。また，今年の11月12日には，森口健司先生が小豆島中学校体育館に来られてしあわせづくり講演会の開催を予定しているため，この講演会では，今日のような温かい「場」や「雰囲気」を作ることを心掛けて欲しいと生徒たちにお願いしました。

今回30年目のグランドフィナーレということでしたが，これまで築いて来られた礎はかなり厚く。今後は形を変えて人権活動は続くと思います。今年も参加する事が出来て大満足な一日となりました。２年連続で参加できたことに感謝します。本当にありがとうございました。

小豆島中学校校長　cu

まず，本会を主催していただいた森口先生，吉成先生をはじめ，T-over 人権教育研究所・人権こども塾の先生方，実行委員を含め参加された生徒のみなさんに心から感謝申し上げます。ありがとうございました。

私自身は，内海中学校で勤務していたころから25年ほどの間，できる限りこの会に参加させていただいています。参加している生徒や関係者の方の語りや質疑・応答をとおして，人間としての在り方と，教師としての在り方の両面から今の自分はどうなのか，在りたい自分の姿を確認し修正するとともに，教師として生徒や保護者・地域とのつながりや学びをどのように進めていくかを改めて見つめたいと考えているからです。毎回，自分の立ち位置を見つめさせていただく中で，自分の弱さ・醜さを痛感させられる一方，血がたぎってくるようなエネルギーをいただいています。

さて，本年度も生徒たちの語り合い，そして大人からのメッセージを聴かせていただくなかで，「語り合い」のもつ大きな価値や，他者の思いに寄り添う温かいこころ，自分事として深く考え共に解決しようとする姿等，大切なことを再確認したり，改めて考えたりすることができました。また，帰路で参加した生徒から話を

聴きましたが，私と同様に多くの学びがあったようで，頼もしく感じました。

本校でも「全体学習」を実施していますが，本音で語ることのできる生徒はほとんどいないのが現状です。また，つながって返す生徒も限られています。本校の教員はがんばっているものの，生徒が語れる雰囲気づくり，こころの耕しがなかなかうまくいっていないのが現状です。

しかし，今日参加した生徒たちは，自分の思いをことばを絞り出すように語っていく姿や，その思いに共感してつながっていくようすから勇気をもらい，自分のことばで語れることを精一杯伝えることができました。伝え終わった後の表情を見ていると安心感とともに，伝えることができた満足感，がんばれた自分への自信を感じることができました。

フロアから「部落差別」を学び，語り合うことの大切さが伝えられましたが，私自身も同様に考えています。ただ，今回のように生徒のニーズやウォントが大切だと考えます。「部落差別」を語れても，他の人権問題には関心がない，まして日常生活での言動につながっていないという人間，教師にはなりたくないし生徒や教職員にもなってほしくない。だからこそ，「部落差別」をしっかり学び，多様な人権課題と関係付け，毎日の生活を見つめ直すことをやり続けていく。

私が学び，成長を続けるとともに，教職員・生徒・保護者・地域・関係機関が「差別をなくす人づくり」をめざし，同じ思いで学び続けることができるように，語りつながる喜びを味わえるように，校長としてリーダーシップを発揮していきたい。その中で，人権・同和教育を推進に尽力する教職員を育てていきたい。

「人権を語り合う中学生交流集会＋」は本年度で終わりますが，今後も，教職員・生徒とともに「鳴門市人権地域フォーラム」や T-over 人権教育研究所・人権こども塾の活動に参加させていただき，学び続けていきたいと考えています。今後ともよろしくお願いします。

土庄中学校２年　ay

中学生交流集会に参加して，前回同様他の人の意見を聞いて多くのことを学ぶことができました。特に印象に残ったのが，高校生の bt さんの「頑張るよりも余裕をもって行動するといい」という言葉です。自分はいろんなことがギリギリになって焦ったりして，周りが見えなくなっていると思います。そこを改善することで，今日の学びや人権意識を高めていけると思うし，何より周りがよく見えて相手との関係や雰囲気をよくしていけると思います。今日もたくさん新しいことを学びました。学校生活などで生かしていきたいです。

土庄中学校２年　az

今日の交流会で，まだ日本にはいろんな差別が残っていることを知って，それぞれの理解をもっと深めて正しい情報を広めていくことが大切だと思った。何よりも自分が差別してしまう側にならないように気をつけようと思った。また，自分の発表に少し心残りがあって，「“カミングアウト＝いじめ”という考え方をなくしていかなければいけない」と言ったけど，それは当然のことなので，本当は自分は LGBTQ ＋について学ぶときに一番大事だと思っていることが“カミングアウト＝いじめ”だと伝えたかった。少し言葉が足りなかったと反省した。言わなかったらいじめは起こらないし日常を過ごすことができるけど，言わなかったら周りの人たちの理解が足りていない状態が続いてしまうということも伝えたかった。人権の集会などで参加できる機会があれば，次はちゃんと伝えたいと思った。あと，献血には行こうと思うことができた。

土庄中学校２年　ba

こういう場所で自分の意見を発表するのはとても勇気がいるんですが，僕が驚いたのは絶え間なく意見が出ていたことです。具体的な体験談が話の中にあったりしてすごいなと思いました。特に高校生の bt さんの話は，自分の言い

たいことをどうやって話せばいいかがしっかりしていたので，僕もちょっと手を挙げれなかったのが悔しいです。

土庄中学校２年　bb

はじめは献血の話から始まって，献血に関することや「免疫ブログリン」という言葉を知ることができた。献血をすることでどこかで困っている人を助けることができることを知って，16歳になったら献血しようと思った。「人の命は小さなことで救われるんだと感じた。実際に小さいころに川崎病になった人がどこか誰かの献血のおかげで,その人が生きることができた」という話を聞いて，すごいことだと思った。

午後の部の LGBTQ ＋について，自分も普段の学校生活で「女子やのに」とか「男子だから」という言葉を言っていて，もしかしたら傷ついている人がいるんじゃないかと気づいた。だから，使わないようにする意識をもちたいと思った。

他にも「自分の好きなもの＝自分らしさ」や「ありのままの自分や相手を受け入れることが大切」という，今まで自分が知らなかった考え方を知ることができてよかった。今日初めてこの人権集会に参加したけど，行ってよかったなと改めて思った。

土庄中学校１年　bc

発表はできなかったけど，今年の土庄町人権フェスタでは発表したい。自分の考えていた人権学習とは違って,みんな真剣な話をしていて，いろんな人権課題について話していた。こういう人権学習があるんだと思った。人権学習はもっとまじめという印象があったけど，これから人権学習を学んで，人権に対する態度を改めたいと思った。

土庄中学校卒業生　de

私はこの集会に来るのは３回目でしたが，去年より中高生が多くてびっくりしました。発表する人がたくさん話をしていてすごいと思いました。自分は手を挙げられなかったけど，みんなの話を聞いて，同じことを思ったり，初めて聞いた話があったりしました。そして，高校生の bt 君が印象に残る話で，すごいと思いました。私も水族館が好きなのでお話してみたいと思ったのですが，人見知りで結局できませんでした。最後の中学生交流集会に来ることができてよかったと思ったし，いろんな話を聞けてこれからの自分の発言など，気をつけようと思えました。bt 君の「余裕をもつこと」を聞いて思ったのは，初めて仕事をするようになってからというもの，周りのことが見えなくなることがありました。全然余裕が持てていなかったなと，しみじみ思いました。

土庄中学校教員　da

中学生が手を挙げて一生懸命発表する姿に感動しました。本校の生徒も手を挙げていましたが，それができたのはやはり，他校の生徒の人権に対する思いや，どんな意見も受け入れようとする姿勢や全体の雰囲気があったからだと思います。献血や LGBTQ ＋，ヤングケアラーなど，多様な視点から人権が語られ，現代におけるさまざまな課題に「人権」があるのだと改めて考えさせられました。最後に「部落問題について深められれば…」との意見がありました。それぞれの地域を見れば，最も根強く残っているのは部落差別かもしれません。しかし，今後生徒が直面していく問題は，生徒の口から出た差別なのではないかと思いました。普段何気なく使っている「個性」という言葉ですが，掘り下げるととても難しいです。私が接する子どもたちも自分の個性や長所を見つけることが下手です。高校生の bt 君が言っていたように，自分に優しく，自分を認めてあげることが第一歩のように思います。今日のように個性や意見を話し合い，意見をぶつけ合って深め合えるような関係を，クラス，学年，学校で生徒とともにつくっていきたいと思います。ありがとうございました。最後の中学生交流集会に参加でき，たいへん光栄でした。

土庄中学校教員　du

自分の意見，思ったことを本音で語ることができる雰囲気づくりが素晴らしかったと思います。また，自分の考えをその場で言葉にし，立派に語る姿に感動を覚えました。私は教員２年目で，人権・同和教育についてまだ勉強するべきことが多くあります。生徒に教える立場として，まずは知ることから始めて，知ったことについて考えることで，生徒に充実した学習の場を提供できるようにしていきたいと思います。

土庄中学校教員　db

平成28年に初めて中学生交流集会に参加したときのことを思い出します。実行委員長の女の子が周りの生徒に懸命に働きかけていました。「大丈夫だよ。みんな聞いてくれるよ」繰り返し温かい言葉をかけていました。その女の子が「ホントは言わんとこと思ったんだけど…」と自分自身がしんどかったときのことを涙ながらに話し始めました。会場が静まり返っていたのですが，後ろの方から先輩にあたる高校生が駆け寄ってきて，泣いている女の子の背中をバーンと叩いて一声，「なんで言ってくれんかったの！いつでも言ってよ！！」張りつめていた空気が一変して笑いの渦に包まれました。そして，何とも言いようのない温かい空気感を感じていました。そのときの風景がずっと自分の心の中に残っています。中高生たちが一生懸命になって人権のことを考えている姿にとても驚きました。それに比べて自分は…と反省しきりでした。この集会に参加して，中高生たちの姿から元気をもらうのが楽しみでした。時代とともに語られる内容が変化していくのを感じましたが，今を生きる中高生たちが目の前にある人権課題について自分のこととして向き合おうとしている姿は変わらないと思います。語り合うことで人は変われるし，周りの人も変えていけるのかもしれない。希望をもち続けたいと思いました。

土庄小学校教員　dc

今回が３回目の参加になりました。毎回子どもたちの熱い思いを受け，とても心が熱くなります。今回は，最後ということで，今までの集大成ともいえる内容でした。その中でも，私はパネリストの bz さんの話がとても印象に残っています。私はこれまでに献血を54回してきています。若い頃から献血をするのが大好きで，誰かの役に立っているという気になれるからだと思います。また，娘が生後６か月の頃に川崎病にかかり，血液製剤を投与しています。同じような経験をしながら，娘に何も伝えていない自分がとても恥ずかしいなと感じました。献血によって助けられた命のことをもっと娘に伝えなくてはならないと強く感じました。そして，娘にも bz さんのように感謝の気持ちがあればと願ってしまいます。また，これまで献血してきたことは間違ってなかったし，これからも献血を続けようと強く思いました。自分の血液で助けられる命があるなら，ほんとうに嬉しいことです。たくさんの子どもたちが自分の思いを語っている姿には感動です。自分のことを，自分の人生を楽しそうに満ちた笑顔で話す姿には,言葉で表すことのできない感動があります。そのように自分のことを話せる児童を育めるよう，目の前の児童を今後も支援していきたいと思います。

土庄町職員　df

校内で部落差別をはじめ，さまざまな人権課題について正面から語ろうとしても難しかった時期がありました。20数年前から，いつもこの会でしっかりと自分を見つめ，自分の思いを率直に語っていく姿を見て，小豆島の子どもたちも刺激を受け，いい意見でムードに飲み込まれていきます。この経験を学校に帰って，少しでも実践しようと取り組んできました。常に子どもたちが会うたびに成長していく姿が見られ，島の子どもたちにとっても憧れの存在になっています。今後もまた出会いの場があり，参加できる日を楽しみにしています。

土庄町職員　dg

グランドフィナーレということでとても残念に思います。土庄町の子どもたちにとって，この中学生交流集会はとても刺激的であり，２学期の人権・同和問題へのエネルギー，モチベーションになるとても大切な会でした。子どもたちだけでなく，教職員，行政職員にとっても，人権・同和問題について自分自身を見つめなおすことができるよい機会になっていました。今日の中学生，高校生の発言を聞いても，自分の考えを自分の言葉でしっかり伝えようとしている姿があったり，なかまの発言を受け入れ，共に考えようとしている姿があったり，同じ空間にいられたことをうれしく思います。cl 先生や ck 先生の想いを受け，小豆島でも土庄町，小豆島町が一緒に子どもたちのつながりを大切にした交流を考えていきたいと思っています。中学生交流集会に携わってこられた皆様に感謝いたします。

土庄町職員　dd

毎年毎年中高生たちが，人権についてしっかりと自分の考えをもって話ができていてすごいなと感じています。午前の部，前半の献血の話もどこから人権問題につなげるのかなと思って聞いていましたが，献血に行き，小さなことでも取り組んでいくことが人権活動になる…と。なるほど,本当にそのとおりだなと思いました。後半も高校生たち中心に話し合い，語り合いを活発にしててよいなと思い聞いていましたが，自分ももう少し部落問題の話をしっかり深く掘り下げて話し合い，語り合いができるようになったらいいなと感じました。本日は参加させていただきありがとうございました。

大山中学校３年　as

最後の徳島研修，とても楽しく聞くことができました。みなさんとてもいい発表だったんですけど，私は bz さんの発表が１番心に残りました。献血の話をしていると，川崎病のことが出たとき，「あれっ？」と思いました。川崎病は献血した血で命が助かると初めて知りました。私は小さいころ川崎病になり，入院していました。治り，私の担当の先生に川崎病とは何か，簡単に話してくれましたが，献血した血（どこの誰だか知らない人の血）で私の命が救われたと初めて知り，自分のことを知れたみたいでとても嬉しかったです。家に帰り，両親と川崎病について話すことができました。今年で徳島研修が終わり，この楽しい時間が終わってしまって悲しいです。みなさん，またどこかで会いましょう!!

大山中学校１年　at

私は今回の会で，本当に人それぞれ違うんだなと思いました。とても当たり前のことですが，今まで初対面の同年代の人たちと人権について語り合う機会がありませんでした。今回，自分が実際に体験したことを話されていて，自分だったらそんな時，どんな行動をとるんだろう，自分だったらどう思うのかな，など，たくさん考えました。家族について，友達について，石川一雄さんについて，性の多様性について，献血について，一つ一つの話がこれからの自分の人生にかかわる大切な情報で，自分を見つめ直すきっかけになりました。家族が難病を患っていたり，障害を持っていたり，いろいろな家庭がある事が分かりました。他にも友達がいじめにあっていたことや，献血をすることで誰かの役に立てることなど，自分とは縁がないと思っていたけれど,とても身近なことに感じました。これを通して私は，辛い思いをしてる人たちに寄り添っていける人になりたいと思いました。そして，人が傷つくようなことをしないように気を付けていきたいです。

城南高校１年　bs

今回の中学生交流集会が最後ということを聞いた去年の秋頃，とても悲しかったのを覚えています。だからこそ，最後の講演会に私が登壇しても良いのか，かなり悩みました。しかし半ば強制ではありましたが，登壇して中学生に向

けて話したいことを話せて，本当に良かったと思いました。その後，中高生による人権作文発表を聞き，様々な人権問題に触れ，考え，発表させていただきました。特に印象に残っているのは，bz さんの「また会おう」という言葉です。私が冒頭に書いた「悲しかった」というのは，もう二度と会えないかもしれないと思ったから生まれた感情ですが，いつかまた会えると信じてする別れの方が，会えるまでの期間が幸せで楽しいのだろうと思いました。中学生交流集会は私に勇気や自信，友達を与えてくれました。今までありがとうございました!!

徳島商業高校２年　bw

私は３回目の本大会参加となりました。３回目にして最初で最後の壇上に上がってしゃべり作文も読みました。ここ最近，マイクを持って話すとき，上手く話せず，まとまらず，結局何が言いたかったのか分からなくなってしまうことが多く，今回もすごく迷いました。bz と bs の話を横で聞きながらメモを見返しつつ，緊張をほぐしていましたが，落ち着くわけもなく番が来て，頭が真っ白になりました。私が最後に伝えたかったこと，それは，「この場所がなくなっても，たくさんのことに興味をもって知り続けてほしい」ということだったのかなと数日たって思います。自分が思うに，経験や体験は自分の１番強い武器になるのです。「無知は恥」知ろうとしないこと，無関心のままで居続けることが恥ずかしいことだと，たくさんの中高生の意見で改めて思いました。

今回初めて打ち明けたことがありました。すごく勇気が必要だったし，前日まですごく不安でした。(最後に読むということも含めてですが…)タイムリーにニュース等で取り上げられるけど, 知らない, 名前しか聞いたことがない, そんな子たちはあの場にも存在して，学校でも取り上げられていないのだろうなとすごく思いました。この会でいるのなら，学校現場にどれほど知らない人がいるのか…。けれど意見発表でたくさんの中高生がおじいちゃん，おばあちゃんについて語ってくれました。少しでもみんなの心に響いてくれたのならうれしい限りです。

この集会のフィナーレに少しでも携われたこと，最初で最後の作文・講演ができたこと，３回もこの集会の本大会に参加できたこと，ここで出会えた仲間がいること，全て“出会い”があったからだと思います。森口先生がよくおっしゃいます。「人権学習は出会い」私も本当にそう思います。ある友人がいなければ，３回も参加できてないですし，ここで仲間をつくることなどなかったことです。出会いで人生も人間性も変わります。夢も…。私はこれからも“人と人との出会い”を大切にして，人生を歩んでいきたいです。本大会関わってくださった全てのみなさんと出会えて感謝です。おつかれさまでした。

藍住中学校卒業生　cm

この度は，５月の実行委員会や前日のご飯会も含め，参加させていただきありがとうございました。私がいた12年前よりも確かに人数も減り，活気溢れた記憶の中学生集会から時が経ったのだなと感じました。それでも，この集会を運営してくださる先生方と参加してくれる学生の皆さんには，ここまで続けてくれてありがとうと感じざるを得ません。

まず，集会そのものの感想を書きましょう。全体会に入る前の狭山事件・石川さんの追悼動画，これを流そうと決めた学生の皆さんに感心いたしました。今年の３月に石川さんのニュースを見た時に，「いったいどれだけの若者がこの事件について知っていて，この報道に注目するだろうか」と, 感じたことを思い出しました。恥ずかしながら，多分私だって，学生時代の学習がなければそんなことを気にも留めなかったんだろうと思います。大人になって感じることがあります。この世の中には，いわゆる「人権問題」とされる課題はたくさんありすぎています。ここ数年のインバウンド増加が国籍・民族差別を，身近なトイレや銭湯を覗けばジェンダ

一問題を見える化させ，他にもいじめなども近年の象徴といわれる人権問題でしょう。ですが，「部落差別(問題)」って聞かないんです，目にしないんです。こんなにみんな差別に敏感な世の中なのに。これってどうしてだろうって考えてみました。私の肌感でしか捉えられないので間違っていたらすみません。「世間話」「井戸端会議」などという言葉があります。とくにパートさんとお話ししていると，何でそんなことまで知ってるの?!ってことを知ってたりします。「あそこの家族，なんか感じ悪い」「あそこの家とは，関わらん方がいいらしいよ」そんな言葉たちの裏に隠れてしまっているのが，部落問題だと私は思うのです。なぜ，その地域出身の人と関わらない方がいいと言われているのか，その歴史を,その誤解を知ろうとしないのです。だって，自分に何かがあったら怖いから，自分の子どもに何かがあったら怖いから，何もないのにです。その話題を出すことを，まるでいけないことだと，深く考えようとしないのだと思うんです。

何十年も生きてきた人の考え方を変えるのは難しいです，違うと言っても軽く流されて終わりなのです。だからこそ，学生の皆さんが部落問題について考えることって，とても大切で将来の自分を守るために必要だと思います。私も今回この集会に参加することを恋人に伝えた時，ぼんやりと人権の集会だよ，ということしかできませんでした。学生の頃はあんなに自信を持って人権集会へ行っていたのに，そんな自分にショックでした。この機会にニュースの出来事を交えて恋人に話してみようと思います。

次に，パネリスト・人権作文を受けての語り合いでしたね。学生の皆さんは，心残りなく語ることができたでしょうか。きっと大人たちは語りたい気持ちを抑えて，我慢していた人ばかりだったと思います。私もその１人でした。語りたい欲が溢れすぎて自信満々に手を挙げる子，勇気を出して少し弱々しく手を挙げる子，みんなが発言しやすいように無言の間を繋いでくれる子，手を挙げるか悩んでいる近くの子を励ます子，マイクを持つ人へ熱く，真剣に，時に見守るように見つめる子たち……いろんな学生さんがいました。その子たち全員がとてもかっこよかったです。語り合うパワーってすごかったんだって思い出しました。

今年の健康診断の血液検査の結果が良かったら献血にも行こうと思いました，将来欲しいと思っている子どものことを考えました，祖父母・親・弟のこと，恋人のことを考えました。

きっとすでに学生の皆さんは，語り合うことの意義を自分なりに見つけていると思いますが，私の意見をお伝えさせてください。

あらゆる人権問題は人と人の繋がりの中に生まれます。それは一人一人が違う人間だからです。今回の半日だけでも，いろんな考え方の人がいることが分かったように，社会では，まさか，という人に出会うことがあります。人権集会はそんな人に出会う前の，自分なりの心づくりをする場，だったように思います。「無知」「無関心」というワードも会の中で出たと思いますが，この先の人生，自分から学ぶ姿勢があっても，意識してない瞬間に新しいことにぶつかることばかりだと思います。それを正しく聞くということ，そして自分の意見を正しく伝えるということが,今の私に役立っていると感じます。受け入れるとか，認めるとかは，その後でいいと思うんです。どうしても自分とは相容れない人だっていると思いますから。でも，事実は曲げてはならない。歴史は曲げてはならない。だから自分のことを素直に語り，相手の言葉を真剣に聞くことが大切だと思うのです。もしもこの先機会があれば，みなさんとしっかり語り合う時間を作ってみたいなと思います。

では，最後にみなさんへのメッセージで終わりましょう。

〈中学生の皆さんへ〉

たくさんの前で手を挙げることは，とても緊張したと思います。今回惜しくも手を挙げられなかった人もいると思います。そのどちらも正しい，とお姉さんは思います。手を挙げた人は，その前のめりの姿勢と自分の言葉で伝えられた

こと，手を挙げられなかった人は，緊張や言いたくないという気持ちに嘘をつかなかったこと，を褒めてあげてください。何でも言える人はすごいですが，何でも言うことが正義な訳ではありません。でもどちらの人にも間違いがあったら，それは否定できるような大人を目指して欲しいと思います。君たちはとっても若い！お姉さんは羨ましいのです。笑

〈高校生の皆さんへ〉

まず，一人一人が個性強すぎて面白すぎますので，是非そのまま素敵な社会人になってください。

自分の将来を考えろ，社会人として当たり前を受け止めろと言われて，難しい時期だと思います。そんな時でも中学生たちのために，かっこいい姿を見せてくれようとする皆さんは，これまたかっこ良かったです。一歩引いた立ち位置で，会を作ってくれてありがとう。

この先の未来を生きていくときは，常に自分を大切に。息抜きもしてくださいね。

〈先生方へ〉

10年以上経っても，県外へ出ても，関わりを途切れさせないでいてくれて，ありがとうございます。中学生集会を支えてくださり，ありがとうございます。今回初めましての先生もおられましたが，この先またご縁が深まっていくことを楽しみにしております。私にできることがあれば，ご協力させていただきたいので，いつでもお声がけください。

あとがき

「遠くで汽笛を聞きながら」
～30年の時を越えて～

古びた窓枠から臨む蒼天の冬。31年前のあの空を片時も忘れない。右手をスッと挙げ，立ちあがり発言する。

「学習会の子どもたちが集う中学生の人権集会をしませんか」

部屋にすし詰めに座る，50人を越える年嵩の教員の表情は，賛否様々に見えた。

教職に就くまえ，採用試験に出るからと同対審答申や同対法を覚えた。理解など全くしていない。ただ試験対策として暗記した。学校現場に出ると，同和教育を進める立場として多くの研修もあれば，先輩教員からの話もあり，時代の大きな教育課題として，大きな教育のうねりの中で学ぶべきことを学んだ。

同和対象地区学習会を取り巻く状況は地域によって様々で，一様ではない。大勢の会場もあれば，わずか数人というところもあった。思いを同じくする仲間の存在は大きい。人数がいれば勇気も湧くが，そうでなければ力も湧いてこない。かといって人数がいても，自分の生きる方向性が見えてこなければ，それもまた意味の無いものとなってしまう。それでも部落差別への憤りを，人として真に大切なことを，学習会で学び合ってきた。

それは学校でも同じだ。研修もあれば，校内，市や町，郡や県の授業研究会を強力に推し進めた。もちろんそこには学校の長や教育委員会の旗が高々と翻る。それもこれも，いわれなき差別に苦しめられてきた被差別部落の人々や子どもたちの未来のためであり，学校や地域社会，そして教員自身の差別意識を払拭するためのものである。

「他所の家みたいな家族旅行には連れて行ってやれんかった。ほなけん修学旅行ぐらいは行かせてやりたい。奨学金があったら高校に行かせられる。」

「子どもと一緒に私も受験してもいいですか。私らのきょうだいは誰も高校行けてません。ほなけん子どもと一緒に受験してみようと思うんです。」

「仕事は何個もやっては辞めてしてきた。もうな，嫌なんよ。聞きたぁもないようなこと職場で聞かされるんは。」

家庭訪問で膝を突き合わせて話をするなかで出てきた，親の切なる思いに限りはない。しかしそれらが表に出ることはほとんどなかった。訴える，思いを吐き出す，自分を語るという経験がなかったからだ。しかし確実に「思い」は，そこにあった。

あれから31年。法が切れて20数年。部落差別は解消されたか。残念ながらそのようには思えない。相変わらずいじめ問題は増加しているし，不登校や自殺も増加している。原因は様々だろう。だがそれらの問題に真剣に真摯に，自分事として向き合おうとする姿勢は年ごとに薄まってきていると感じる。人権への関心は恐ろしく後退していると感じる。31年前は教育界全体が旗を振り追い風であった。が，法が切れると，手のひらを返したように旗が見えなくなった。それでも人権教育を推し進めようとすると，強大な向かい風が襲いかかってきた。それはまるで，梯子を外されたような感覚だ。私たちは同和教育として，人としての心を大切にしてきた。それを法が切れたからといって，そっぽ向くようなことをしていいのか。そんなわけはなかろう。それが教育というならば，私はそれを教育と呼びたくない。

今夏，30年めの中学生の人権集会を終えた。そしてその幕を閉じた。部落差別がなくなったからではない。継続を担う教員が育たなかったからだ。いま，大きな旗印は，学力向上，英語力向上，ＩＣＴ教育であり，生成ＡＩだ。戦時下の学徒動員になぞらえるならば，経済戦争のための経済学徒動員である。日本経済を復興させるべく，世界に打ち勝つための教育のように

思えてならない。旗振り役の存在は大きい。だから同和教育・人権教育は前進してきた。であるならば，今後はそういう方向で世の中は進んでいくということになる。果たしてそれでいいのか。

「目の前で部落の悪口を聞かされた。アンタ知らんの，あそこの道通るときは気いつけた方がいいじょ，と。私の住んでるところも知らずに。」
「我が子も大きくなり，自分の部落ルーツを伝えるべきか，どう伝えればいいか，悩んでいます。なぜならやっぱり，人を除け者にするような空気を感じるからです。」

当時の思いを抱いていた人たちは，消えていなくなったか。そんなはずはない。かといって今，差別に苛まれることなく，安心して暮らせているか。そうでもない。なのにこの，人として大切な教育から手を引こうとする世の中の流れには賛同できない。大切なものは人の思いであり，「熱」である。人が人である限り，それは決して変わらない。

上記文面は，今秋，「徳島ペンクラブ選集」に寄稿したものである。

また，今年の中学生集会の私見については，国連 NGO 横浜国際人権センター月刊誌「語るかたるトーク」に，５回(VOL. 367～371)にわたり連載した。T-over 人権教育研究所ホームページ(https://t-over. net)からご覧いただければと思う。

30年，いろんなことがあった。語り始めればきりがない。腹が立つことも，悔しい思いも，何度もしてきた。しかしその一方で，なぜ続けてこられたかというと，それを越えて余りある贈り物を，中学生や高校生たちが届けてくれたからだ。人権学習への関心が細っていく学校教育の中で，それでも思いを寄せ，休日返上で参加の道を選んでくれた。本当にありがたい。感謝以外の何物でもない。

それだけではない，共に歩むことを選んでくれた教員仲間の存在が大きかった。はじめの頃こそ職務として，公務として携わることができたものの，法が切れて以降はその限りではなくなった。つまり，無給のボランティアでしかなくなった。働き方改革の視点で言えば，アウトだろう。管理職からの心ない対応に迫られ，苦しい思いもさせてしまったと思う。しかしそれでも共に歩んでくれたのは，ここが「大事な場」であるという認識があったからだと思う。もはやそれは仕事ではなく，立場を越えた，私たちの「覚悟」のようなものだった。その行為に対し，私は最大級のお礼と感謝の気持ちを表したい。その存在なくして，この集会はあり得なかった。

県外からの参加は，さらに困難さが伴ったのではないだろうか。長年にわたり，学校の，地域の，町の取り組みとして絶やすことなく参加し続けてくださった皆さまにも，最大級のお礼と感謝を示したい。

私は，本集会の幕を閉じたとしても，これまでの取り組みを止めるつもりはない。ここで止めれば，これまでの全てが嘘になる。

「自分の言葉に嘘はつくまい 人を裏切るまい」
谷村新司さんの歌の歌詞の一節だ。

別の新たな道を創造したとしても，「熱と光」を追い続ける人でありたい。どこまでも，思いを大切にする人間でありたい。

いつまでも，光を失わない人でありたい。

最後に皆さん，本当に，ありがとう。

またいつか，どこかで。

人権を語り合う中学生交流集会＋2025
運営委員会事務局　吉成　正士